

津波につよく、かつての集落の暮らしを大切にしたい、新しい玉浦のまち

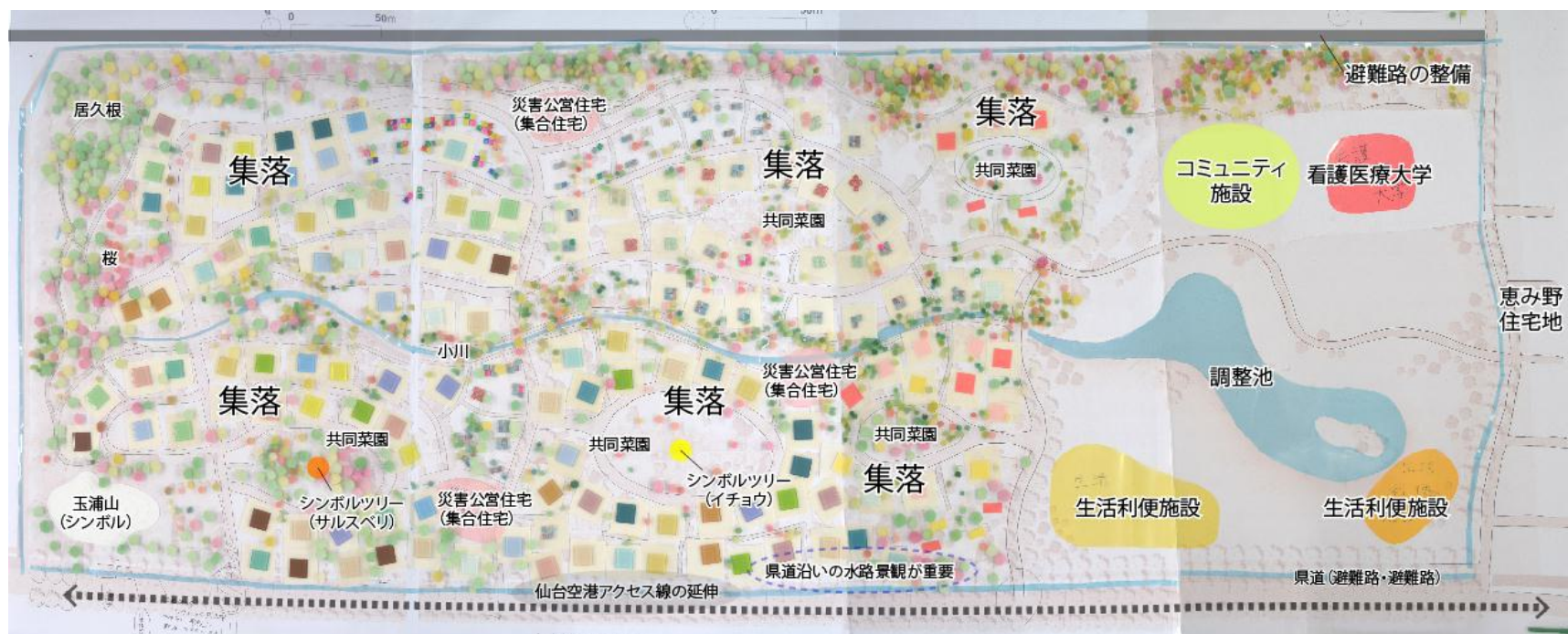
昨年11月から数えて、10回目となるワークショップが2012年7月21日に、岩沼市東仮設住宅集会所で開催されました。今回のワークショップでは、5つの集落（相野釜・二野倉・長谷釜・蒲崎・新浜）のみなさんが集まり、それぞれの集落が行ってきたワークショップの成果を発表し合い、まちづくりへの想いを皆で共有し、1つの提案にまとめました。

みなさんの強い希望は、津波や水害に強いまちを作ることでした。住宅地のかさ上げ、液状化対策等をしっかりと行ってほしい、雨水調整池は公園のように使えるようにしてほしいという希望が出されました。また、これまでの集落の絆を大切に、集落ごとにまとまって暮らしたいという意見が多く出されました。集落の雰囲気大切にしていきたいために、道路は碁盤目状ではなく、今までの集落の道を参考とした曲がった道路が馴染み深く、暮らしやすいという話し合いが行われました。子供やお年寄りが安心して歩けるように、道路をカーブさせ、車がスピードを出せない工夫をしたらどうかといった提案が出されました。その他に、災害公営住宅（集合住宅）を集落の間につくり、今までの集落の近くに住めるようにしたいという意見や、看護医療大学を誘致して福祉サービスの拠点を整備すること、電柱の地中化を行うこと、集落を一望できる見晴らしのよい丘をつくることといった提案が話し合われました。

今回のワークショップでは、5集落の住民が活発な意見交換をしながら、一緒に模型をつくりあげることで、新しいまちについての想い・イメージを共有することができました。

玉浦西地区まちづくり原則

1. 津波に強いまちをつくる（住宅地のかさ上げ）
2. 6つの集落は、まとまって暮らしたい
3. それぞれの集落の特色を出したい
4. 碁盤目状ではなく、今までの集落のおもかげを活かした、ゆるやかな曲線を描く道路にしたい
5. 緑の多い（居久根のある）まちを作り出したい
6. 災害公営住宅（集合住宅の）への移転者する方も、今までの集落の近くに住めるようにしたい
7. 看護医療大学を誘致して、福祉サービスの拠点を整備したい
8. 電柱の地中化を行う
9. 小高い丘をつくる



図：玉浦西地区の復興まちづくりイメージ図（ワークショップの成果）

この内容は、岩沼市玉浦西地区まちづくり検討委員会に反映される予定です。